

作物統計調査
令和7年産水稻の作付面積及び10月25日現在の予想収穫量（宮城）

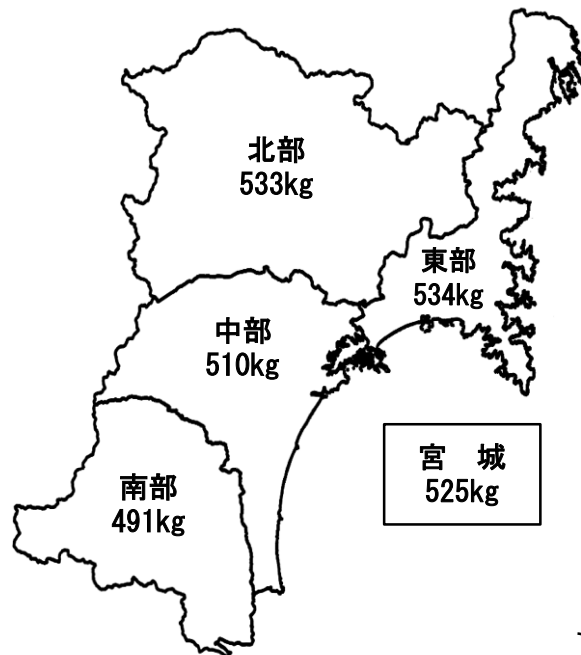
令和7年産主食用米の予想収穫量は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで34万2,800 t（前年に比べ2万1,600 tの増加）の見込み。

- 1 令和7年産水稻の10月25日現在における生産者が使用しているふるい目幅ベースの予想収穫量（主食用）は34万2,800 tで、前年産に比べ2万1,600 t増加と見込まれる。

これは、10月25日現在における10 a 当たり予想収量（生産者が使用しているふるい目幅ベース）は、田植後の低温により全もみ数が少ないとなったことから、前年産に比べ25kg減少の525kgと見込まれるものの、作付面積（主食用）が前年産に比べ6,900ha増加の6万5,300haとなったためである。

- 2 作況単収指数は99と見込まれる。
各作柄表示地帯の作況単収指数は表のとおりである。

図1 作柄表示地帯別10 a 当たり
予想収量（10月25日現在）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）



参考

令和7年産水稻の10月25日現在のふるい目幅1.70mmベースの予想収穫量（主食用）は36万3,100 tで、前年産に比べ2万2,600 t増加と見込まれる。

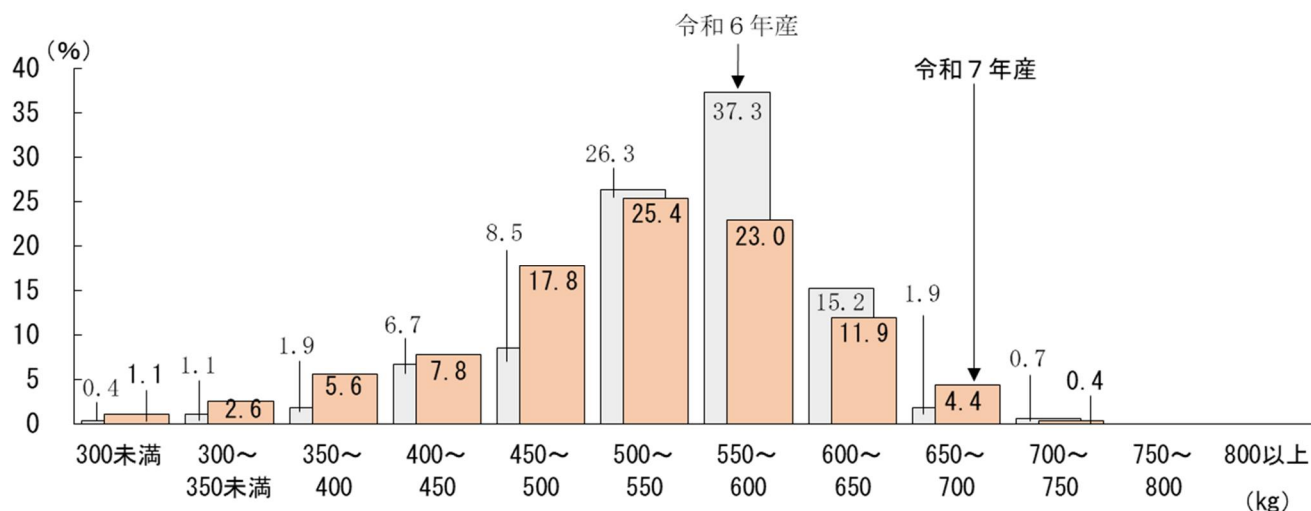
表 令和7年産水稻の作付面積（主食用）、10 a 当たり予想収量及び予想収穫量（10月25日現在）

区 分	作付面積 (主食用)	生産者が使用しているふるい目幅で選別			ふるい目幅1.70mmで選別			作況 単収 指数
		10 a 当 たり 予 想 収 量 ①	対前年比	予想収穫量 (主食用(生産者ふるい上米))	10 a 当 たり 予 想 収 量 ②	対前年比	予想収穫量 (主食用(生産者ふるい下米含む。))	
	ha	kg	%	t	kg	%	t	
宮 城	65,300	525	95	342,800	556	95	363,100	99
南 部	...	491	96	...	528	96	...	99
中 部	...	510	97	...	540	96	...	101
北 部	...	533	95	...	563	95	...	99
東 部	...	534	96	...	571	97	...	101

注：1 ①10 a 当たり予想収量は、過去5か年に生産者が実際に使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅（宮城県は1.90mm）以上に選別された玄米を基に算出した数値である。
2 ②10 a 当たり予想収量は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
3 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10 a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10 a 当たり収量の比率である。
4 作柄表示地帯別の作付面積（主食用）、予想収穫量（主食用（生産者ふるい上米））及び予想収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む。））については、新規需要米（飼料用を含む。）、備蓄米、加工用米等の作付面積を把握していないことから「…」で示した。

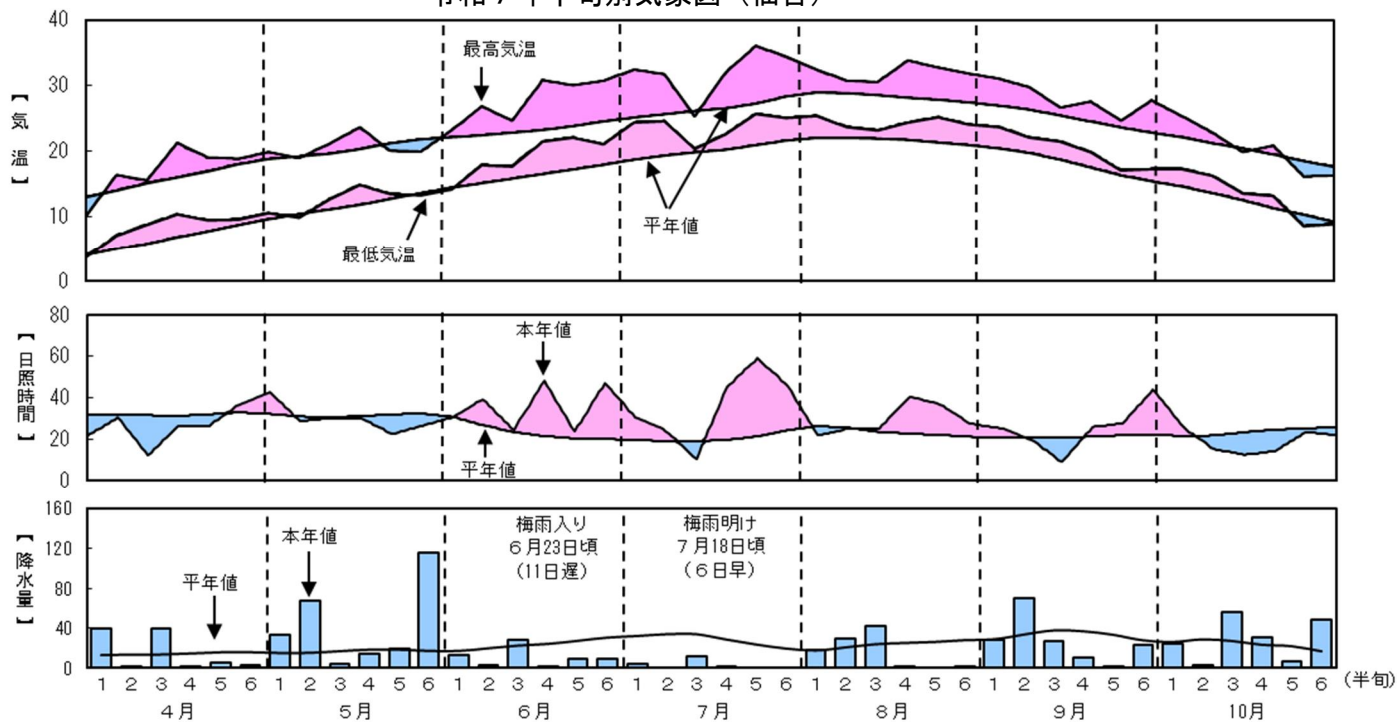
- 作付面積（主食用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積（9月15日時点）を除いた面積である。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい上米））は、生産者が使用しているふるい目幅（宮城県は1.90mm）で選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり収量及び収穫量（主食用（生産者ふるい下米含む））は、ふるい目幅1.70mmで選別された玄米の重量である（令和7年産は予想）。
- 10a 当たり予想収量及び予想収穫量は、収穫を終えた地域では刈取り実測による結果であるが、一部収穫を終えていない地域ではもみ数等を実測し、その後の登熟については気象が平年並みに推移するものとして推定した結果である。したがって、今後の気象条件等により変動することがある。
- 作況単収指数は、生産者が使用しているふるい目幅ベースで算出した10a 当たり収量の前年産までの5か年中3年平均（最高、最低除く。）に対する10a 当たり収量の比率である。

図2 令和7年産水稻作況標本筆の10a 当たり収量の分布状況（宮城）
（生産者が使用しているふるい目幅ベース）（10月25日現在）



【参 考】

令和7年半旬別気象図（仙台）



資料：気象庁ホームページ

注：（ ）内の日数の遅速は、対平年差である。

お問合せ先

東北農政局 統計部 統計調査担当
電話：022-745-9381（直通） 内線 4752